

平成 28 年度第 2 回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成 28 年 10 月 28 日（金）10 時～11 時 30 分

■開催場所 平塚市博物館特別研究室

■会議出席者（敬称略）

副会長 椿田有希子

委員 大野秀樹、澤井建二、平井 晃、安室 知

事務局 高橋社会教育部長、澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）、
塚田主任（天文担当学芸員）

■傍聴者 なし

■会議の概要

1 開 会

教育長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・夏期特別展及び各種行事の実施状況について
- ・今後の事業計画等について

(2) 平塚市博物館における調査研究活動について

(3) その他

- ・事務連絡等

※ 閉会后秋期特別展の展示解説。

■議事および質疑

議題（1）報告事項等について

◆夏期特別展「レンズが見たひらつか 2 1976－2016」及び各種行事の実施状況について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 現在開催している秋期特別展で、廊下のケースが空になっている。夏期特別展は大変良かったと思うので、アンケートにもあるように、40周年なので刊行物等や博物館の歩みについて展示をしてはどうか。

プラネタリウムについてなど、高齢者は3階まで行かない人も多いので、1階に展示してお

くのも良いと思う。

事務局 おっしゃる通りだと思うが、今回の特別展では廊下のケースも展示の予定に入っている。期間中には展示が増える予定である。

委員 イブニング・ミュージアム・ウィークは何回か参加した。担当の学芸員は大変だと思うが非常に素晴らしい試みで良いと思う。普段は来られない一般の方、仕事をされている方には特に良いと思う。それだけに、参加者がもう少し多くて良いのかなと思う。何か広報の方法は無いものだろうか。全般に採り上げてもらえる方法は無いかと考えるがどうか。

委員 私も今回のイブニング・ミュージアム・ウィークはすべて参加した。すべて参加することによって、いろいろな面から博物館が見えて良かったが、参加者がいつも十数名で顔ぶれがほとんど一緒であった。もっと多くの方が参加すればもっと良かったと思うので、集客の工夫をした方が良い。

委員 学芸員の大変さはよくわかる。今回などは「ロケット」のテーマで話をされるというので、どのような内容になるのかということが楽しみになる。それだけに、もっと来てくれたらいいな、もったいないなと思う。昨日の大山寺縁起の話など、あれだけ解説があるというのはめったにない。

委員 広報について、夏期特別展のチラシについて、どこに配られたのでしょうか。

事務局 博物館受付での配布がメインになるが、市内の小中学校、幼稚園には配布している。

委員 「あなたと博物館」は市外にも配布していますか？

事務局 こちらも博物館受付での配布に加えて、市内の小中学校、幼稚園、公民館には配布している。

委員 以前はもう少し紙質が良かったような気がする。2か月分のカレンダーが載っているが、単色で小さい字でこれだけの記事が書かれているとインパクトがない。予算がかかることだが、片面だけでも多色刷りにできないものか。そうすれば見る側のインパクトは強くなる。

事務局 カラー化について、現在庁内印刷で製作している。庁内でも印刷物のカラー化による効果は認識しており、カラー印刷を導入するかどうかの検討は始めている状況。「あなたと博物館」自体はカラーで作成しており、ホームページ上ではカラーのPDFファイルをアップしている。ただ、カレンダーはカラーで作成していないので、今後考えてみたい。

広報を工夫して参加者の増を、という点については検討の余地はあるかと考えるが、逆に十数名だからできることもあり、そういう内容も実施している。

事務局 「あなたと博物館」について、お金がかかる部分は別として、かなり長い期間同じスタイルでやってきている。その間に行事の数などが変わってきているので、もう一度、どのような

誌面構成が良いかという検討をしたいと思う。

委員 夏の特別展で体験学習を実施しているが、茶室の門の屋根に2回頭をぶつけてしまった。あのでっぱりが気に入っている。

図録について序の章は新しい写真が上で古い写真が下にある一方、1章以降は古い写真が上になっている。目線から行くと序の章は逆が良かったのではないか。

事務局 図録写真の配置については、担当した自分が気づかなかった。今後の参考にしたい。

委員 アンケートで「父の写真が展示されていると封書が届きました」とあるが、写真に写っている人物で特定された方には案内を出したのか。

事務局 アンケートは無記名なのでどなたかはわからないが、開催にあたって事前に写真を公募し、応募者には案内を送っているのでは、その方かと思われる。

委員 普段の展示でも工夫はしていると思うが、こういう展示だと特に自分や亡くなった身内が写っていたり、自分の昔のことが知りたいとか、足を運ぶ気にさせる要素が多い。

アンケートを見ると「現在の平塚市の地図があった方が良い」とか「畑や山が店や住宅地に変った写真があったらいい」など、改善のアイデアがある。市民にとっても喜びの多い展示だと思うが、続編の予定はあるか。

事務局 これまでの1と2で年代的にはカバーしたので、次にやるとしたら違った切り口になると思う。家で眠っている古い写真もまだあると考えているので、収集の呼びかけは続けるつもり。その中で新たな切り口が見えてくるかと思う。さらに、写真によって町の移り変わりを見るというのは、常設展示にあっても良い内容と考えており、それも含めて考えていきたい。

委員 写真による平塚の歴史の掘り起しは、是非継続的にやってもらいたい。

◆今後の事業計画等（秋期特別展「知られざるロケット開発」）について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 平塚市博物館の「売り」のひとつがプラネタリウムだが、このプラネタリウムを天文以外の分野が使うということは多いのか。

事務局 プラネタリウム自体は高額な機器だが、その作り出す空間は他の分野でも効果的に利用できると考えている。近年は他分野とのコラボレーションは積極的に取り組んでいる。しかし、プラネタリウムの機器は天文分野の学芸員でないと一朝一夕で操作をすることができないので、限界がある。

委員 他分野とのコラボレーション企画は是非考えてほしい。

委員 今回の特別展は総合博物館ならではのもので、非常に面白い。反面、情報量が多くてこの協

議会前の30分ではとても見きれなかった。全体に文字が多い展示になっている。他の媒体を使う手もあるが金額的にも難しいところがある。現実的には、自分が読まなくても学芸員に解説してもらえるとという「フロアガイド」を充実させていくと、展示パネルを苦にする方が減るのではないか。イベントが多いので「さらに」というと大変だろうが。

事務局 文字の多さは学芸員の中でも賛否がある。展示においてその場でどれだけの情報を提供するかは担当者も自己矛盾の中で決めている。展示のたびによく考えながらやっていきたい。

委員 今回の展示は東海大学と神奈川大学の協力を得ている。また、3館コラボレーションの折りに、変わり絵は東京工芸大学の学生さんに描いてもらっている。地元の大学の力を活かすのは大変良いことだと思うが、以前から力を入れていたのか、それとも最近の事なのか。

事務局 ロケットに関しては東海大学、神奈川大学それぞれに研究するサークルがあり、以前から交流があった。秦野の曾屋高校は歴史担当学芸員と曾屋高校の教員とが交流があったという経緯があるが、2回の情報コーナーには「ミニ文化祭」というカテゴリがあり、以前から発表の場として提供している。

委員 博物館にとってもメリットがあると思うが、学生・生徒にとっても自分たちの研究成果を社会に還元する絶好の機会になっている。そういう意味でも有意義だと思う。

委員 今後の事業で、例えば子ども目線で平塚市博物館の良さをPRするような企画はあるのか。体験学習などはもちろんだが、子ども目線で「平塚市博物館はすごいな」と思わせるような企画が欲しい。例えば絵の道具をわたして資料を描いてもらうというような。

事務局 前回の協議会の前に「こどもフェスタ」を開催した。これには全分野が参加している。

議題（2）平塚市博物館における調査研究活動について

◆本議題について、事務局澤村館長より説明。

平塚市博物館における調査研究活動の概要について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

「ひらつか星空調査隊」の活動状況について、事務局塚田学芸員が説明資料により説明。

委員 参考になった。非常に活発な市民参加型の調査研究活動だと思う。参加者が固定化するという課題もあったが、単発の募集行事から会員制行事へ移行するような仕掛けは作っているのか。私の場合作って見たがうまくいかなかった。

もう一つ、市民の方は活動を続けていると発表したいという意欲を持つ方が出てくる。これに対して発表をする場はあるのか。

事務局 会員制行事への移行は、仕掛けを作るのは難しいと思う。ただ、申込制行事自体が会員制行

事の会員の皆さんに手伝っていただいているので、その中で参加者にも身近に興味を持ってもらえるよう心掛けている。

発表の場としては、博物館特別展事業の中で毎年「博物館文化祭」を開催している。これは会員の皆さんで実行委員会を作り、特別展示室での展示を中心にして、期間中の1日は講堂で成果発表会を開催している。他に実演も用意しており、実演を見たり参加したりした方が後で会員になるということもある。

事務局 会の中でも入門的な会や専門的な会があると思う。これは分野やテーマによって使い分けている。天文分野では「星を見る会」から「天体観察会」への参加を促している。テーマを絞った会ですと、あらかじめ活動内容を提示して直接会員を募っている。

委員 感想だが、昨今の博物館や文化施設は、厳しい財政や人手の問題がありどうしても地味な調査研究や資料整理といったところは、費用対効果が見えづらいこともあって後回しにされてしまう。こちらの調査研究の在り方は、いろいろな課題や厳しい状況がある中で、インプットからアウトプットまで有機的につながっている点で、良い形になっていると思う。調査研究は博物館活動の根幹なので、継続してもらいたい。

議題 (3) その他

◆議題以外の話題等。

委員 屋外展示に「丹沢の石」があるが、ほとんど見学している様子が見られない。屋外展示の管理が良くないと、活用が充分ではないのではないかな。

事務局 ご意見のとおり部分もある。メンテナンスでは数年前に番号の書き換えや解説板の交換を行った。ただ、解説文が無いものは対策したい。劣化しているものは予算化していきたい。

委員 スマートホンなどを利用して解説することが可能ではないか。ハードウェアでできないことを、ソフトウェアやアプリでできるのではないかな。

事務局 方法のひとつとして考えていきたい。ただし、それが全ての方にとって便利なのか、情報の提供が公平になされているかなども含めて検討したい。

委員 私が学芸員をしていたころ、展示図録に執筆した学芸員の名前をのせることは無かったし、解説パネルにも書かなかった。今回の「知られざるロケット開発」の図録を見ても奥付には「発行 平塚市博物館」としかなかった。これだけの調査研究がありながら学芸員の名前が引用しづらい、あるいは引用できないのがもったいなく思う。顔の見える展示、誰が企画した展示なのかということをはっきりとさせることも良いのではないかと常々考えてい

る。

事務局 従来、担当者名をのせるかどうかは担当者に任せている。確かに、展示が研究成果という面も大きくなっているので、検討したい。

委 員 制作したプラネタリウム番組などはどうしているのか。

事務局 エンドロールで担当者名を出している。普段の星空解説の場合は特にない。

◆次回の日程を調整して終了した。

以 上

配布資料

平塚市博物館 平成28年度夏期特別展
「レンズが見たひらつか2 1976-2016」

- 1 会期 : 平成28年7月16日(土)～9月11日(日)
 2 時間 : 9時～17時(8/2～8/7はイブニングミュージアムウィークにつき午後7時まで開館)
 3 会場 : 平塚市博物館特別展示室
 4 主旨 : 平塚市博物館開館40周年にあたって、開館した1976年(昭和51年)から2016年(平成28年)までの40年間の平塚市とその周辺の写真で、地域のまちの歩みや風景、景観の変化が表れている写真、地域や家庭のくらしぶりが伝わる写真、地域の歴史的出来事に関する写真などを紹介した。あわせて40年間の社会の移り変わりや当時の暮らし、世相を反映する資料も展示した。また、博物館活動の40年間を振り返ることができるコーナーも設置した。

5 展示構成と展示資料

◇ 展示構成

第1章 あの頃のまちとくらし 第2章 あの日あの時 第3章 平塚市博物館の40年

◇ 展示資料

写真パネル、市制記念グッズ、レコード、家庭用ゲーム機、博物館特別展ポスター等

約150展

6 特別展関連行事

◇ 記念講演会

会場：講堂 参加自由(先着50名)

「平塚市博物館・現在・過去・未来」

講師 鷹宏道(前館長・当館学芸員)・澤村泰彦(館長)

日時 7月24日(日)13:30～15:00

参加者33名

「映像で見るちょっと前の平塚—くらしの変遷—」

講師 鷹宏道(当館学芸員)

日時 8月7日(日)13:30～15:00

参加者24名

「あの頃と今—街なみとくらし—」

講師 栗山雄揮(当館学芸員)

日時 8月21日(日)13:30～15:00

参加者21名

◇ 特別展展示解説

※各回13時～13時50分、参加自由

① 7月16日(土) 担当：栗山雄揮

参加者20名

② 8月20日(土) 担当：塚田 健

参加者7名

③ 9月4日(日) 担当：野崎 篤

参加者16名

7 印刷物

図録 A4判 64頁 カラー 1000部 頒布価格 ¥700 (販売部数124部)

ポスター B3判 片面 カラー 500部

リーフレット A4判 両面 カラー 2000部

8 展示期間中入館者数

	大人	子ども	計	日数	こどもの割合	1日平均
7月	2,627	1,422	4,049	14	35.1%	289
8月	5,464	2,876	8,340	26	34.5%	321
9月	1,384	764	2,148	10	35.6%	215
合計	9,475	5,062	14,537	50	34.8%	291

<参考> 27年度夏期特別展「古代生活実験室」

合計	9,584	5,141	14,725	50	34.9%	295
----	-------	-------	--------	----	-------	-----

9 アンケート結果

有効回答数 104 枚

回答者の住所 平塚市内 52 名、平塚市外神奈川県内 32 名、神奈川県外関東地方 3 名、関東地方以外 0 名、海外 1 名

回答者性別 男 51 名、女 37 名

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代～
	15名	4名	8名	12名	12名	14名	10名	3名

情報の入手先 広報ひらつか 16 名、博物館ホームページ 7 名、あなたと博物館 5 名、新聞等 9 名、ポスター 6 名、その他 39 名

おもしろさ	非常におもしろい 47.6%	ややおもしろい 38.1%	ふつう 11.9%	やや物足りない 1.2%	つまらない 1.2%
総合評価	とても良い 52.7%	良い 37.3%	ふつう 7.7%	もう少し 0%	良くない 2.3%

自由意見

	年代	性別
父の写真が展示されていると封書が届きましたので楽しみに参りました。生まれも育ちも平塚ですので大変興味深く見させて頂きました。	50	女
レンズが見た平塚1の方の開催は知らなかったのですが昭和40年ころの駅ビルがなかった頃の駅前写真などを見たいです。		
亡き主人の写真があり 見に来ました知り合いの方も沢山あり 良かった	80	女
紙幣、CD～ブルーレイへの変遷などモノのうつりかわりは 子供にもわかりやすいと思いました	50	女
平塚市は多くのイベントを毎日たゆまなく多くの情報を発信してくれる場所です。写真見て「あ～そうだった」と懐かしさを感じさせてくれました。	30	男
昔のレコードやテープ ゲーム機などが見れてよかった。平塚かで今まであったことが一周まわっただけでだいたい分かりやすかった。	小学生	女
なつかしいステキな写真で自身の色んな時を振り返る事が出来た	40	女
とてもなつかしい気持ちになった。また、違うのが見たい	40	男
ふせんのパネルがおもしろかったです。	高校生	女
よくわからなかった。	小学生	女
市内で(旧大野町中原)で生れ、育ったひとりとして、小さいながら戦争を少し体験してきました。旧	70	男

農林省の中で遊んだ思い出と現在の総合公園の比較は、とてもなつかしいです。 農林省”跡地”で松竹映画の撮影があったこともなつかしい。	
ぜんぜんわかんなかったあ	7才 女
昔と今でいろいろ変わっていた。	小学生 女
自分が子供の頃の町並みの写真など、見ていてとてもなつかしく、当時を思い出しました。	40 女
色々知れてよかった	小学生 男
わかりやすいです。	40 男
昭和から平成に変わる年に平塚に住むこととなった。もともと、仙台に住んでいたので、平塚の戦後の歴史がわかって とてもよかった。	60 男
七夕おどりを歌っているのが 都はるみさんだと いままで知りませんでした。子供の頃からよく聞いていたのに… さすがにパンチがありますよね！ 父がすってたばこのからや 記念乗車券、オレンジカード…もってたなあーと なつかしかったです	40 女
40年前の姿が、町並み、身近な日用品、道路、生活の状況など 実にていねいに、分かり易く比較しようという意気込みが、感じられる。 博物館の刊行物の展示を見ると、良くここまで、努力してきたか、又、市民の力を結集して、まとめ上げたかが、良く解る。貴重な次世代への重要な記録を残したものと感心した。	70 男
おもしろく、じだいを感じた。	小学生 男
第2弾ということで、私が生まれた後の写真も多くあり、現在との違いなどが わかりました。 また「そういえば こんなことがあったな」「ここの場にいたので 写ってるのでは」と色々思い出しながら見学することができました。	30 男
特別展入口通路右側の展示ケース列①博物館の刊行物②博物館の40年③プラネタリウムの40年④特別展の40年⑤サークル活動の40年 特に①～③は、特別展終了後も開館40周年のこの一年間、常設展示化した方が良くと思います。	60 男
ふせんをはっているいろいろな人の歴史がわかっておもしろい。 自分の誕生のふせんをはれなかったことが悲しい…	40 男
大変為に成りました。其の時代の時が想いだされます。	80 男
なつかしかったです ^ _ ^	40 女
むかしのしゃしんがあてむかしはどうだかをしれたの	～19 女
おもしろすぎ	～19 女
現在の平塚市地図（大きい）があれば（場所の）比較ができる。見やすい。（写真の配置が良い）次回もあれば来たいです。	60 男
すごいいろいろなしゃしんがすごかった	～19 女
七夕飾りは昔はきらびやかなだったんだなと感じました。現在も20年ほど前とかわってないところがあっておどろいた。	40 男
博物館、プラネタリウムの変遷がよかった。（この広場に来ては、地元の紅葉丘の文化施設群と同じ臭いを感じました。紅葉坂の科学展示コーナーやプラネタリウムはなくなりましたが、ここでは時代とともに移ろいながらも残っていてくれて大変嬉しく思いました。）時代展について、パネルとともに、当時の代表的なメディアを合わせて展示しているのがよかったです。（工業団地	50 男

を後背にひかえた平塚らしさがでていてよかったです。)	
またきたいです。	小学生 女
昔なつかしい景色等盛沢山で良かった。9月11日で閉めるのがもったいない。またの機会を宜しく。	70 男
今回初めて博物館にやってきました。企画の内容が平塚にちなんでいるものとなっていておもしろいと思います。	40 男
20年位前の写真が訴える力は大きい。	80～ 男
写真が多く、見ていて楽しい展示でした。特に最後の年表から、平塚市の歴史をたどれる。自身が何をしていた時どうだったか、を思いうかべられる展示だったのは、個人的に興味深いみせ方だと思います。	20 女
なつかしい写真が沢山見れて良かったです。	30 女
ここにこれてよかったです。またきたい。	小学生 女
今までの特別展広告や平塚市の歴史についての展示について良くわかりました。改善点として映像資料の上映時間を表記するとよいと思われます。	20 男
1975以前を見たくになりました。いつかぜひお願いします。	50 男
紅谷町ブルースにはおそれいました。	60 男
とてもおもしろかった。	小学生 女
企画された(行政)担当者の御努力に敬意。市井の人々が写り込んだ写真を中心に見させて頂きました。	70 男
2006年に生まれ、2012年にここ平塚市博物館にいった。とてもおもしろかった。	小学生 男
昔のこと思い出されます	80～ 女
もっと子どもが見てもわかりやすく！楽しめるような工夫をした方がいいと思う！	小学生 女
とても感動致しました。	70 男
むかしからファミコンがあってびっくりした	小学生 男
物や機械の展示も良いが昔の平塚を写した写真をもっと見たい	40 男
もう少し子どもが見てもおもしろいものをてんじしているといい	～19 女
子供の頃、開館間もない頃の博物館にお邪魔していました。茅ヶ崎市に住んでいましたので平塚には茅ヶ崎にないものや活気があってあこがれをもっていました。風景写真等なつかしいものばかりです。タイムスリップしたような気持ちで当時を満喫できました。	40 男
なつかしくてとてもおもしろかった。厚木でもやらんかな、、、	30 男
ふせんで自分たちの歩みを書き込めるスペースがあったのは、とてもよかったです。ありがとうございました。	20 女
写真など楽しく拝見しました。なつかしかったです。ポスター圧巻ですね。畑→店、山→住宅地へ変わったのが大きいと思うのでその写真があったらよかったです。ありがとうございました。	50 女



2016年夏のイベント

夏期特別展と関連行事

◎開館40周年記念 夏期特別展「レンズが見たひらつか2 1976-2016」

内容：博物館が開館した昭和51年以降のまこと博物館のあゆみを写真で紹介いたします。
会期：7月16日(土)から9月11日(日)まで / 会場：博物館1階 特別展示室

◎特別展 展示解説

日時：7月16日(土)、8月20日(土)、9月4日(日) 午後1時～午後1時50分
場所：博物館1階 特別展示室 / 参加：自由

◎記念講演会「平塚市博物館・現在・過去・未来」

内容：開館から現在、そして未来の博物館について前館長・現館長によるレクチャーを行います。
日時：7月24日(日) 午後1時30分～午後3時(開場は午後1時15分)

講師：鷹宏道(前館長・当館学芸員)・澤村泰彦(館長)

参加：自由 / 定員：50人(先着順) / 場所：博物館1階 講堂

◎記念講演会「映像で見ると前の平塚ーくらしの変遷ー」

内容：平塚市の広報ビデオから、かつての平塚の街や人々の暮らしを振り返ります。
日時：8月7日(日) 午後1時30分～午後3時(開場は午後1時15分)

講師：鷹宏道(当館学芸員)

参加：自由 / 定員：50人(先着順) / 場所：博物館1階 講堂

◎記念講演会「あの頃と今ー街なみとくらしー」

内容：特別展で紹介した写真から、平塚の今と昔を探ります。

日時：8月21日(日) 午後1時30分～午後3時(開場は午後1時15分)

講師：栗山雄揮(当館学芸担当)

参加：自由 / 定員：50人(先着順) / 場所：博物館1階 講堂

イブニング・ミュージアム・ウィーク

開館時間を午後7時まで延長して、「写真と語る」をテーマに講演を行います(入館は午後6時30分まで)。
講演開催時間：午後6時～午後6時50分 / 定員：70名(先着順)

◎平塚の民俗写真40年

内容：この40年に撮りだめた民俗写真を通して、市域民俗の特色と変化を解説します。
日時：8月2日(火) / 場所：博物館1階 講堂

◎写真は語れるのか

内容：考古資料の写真から何を語れるのかを実験します。
日時：8月3日(水) / 場所：博物館1階 講堂

◎写真で見える天文学の40年

内容：乾版からCCDへ。地上望遠鏡から宇宙望遠鏡へ。大きく進歩した宇宙を見る目。それを通して見た宇宙の姿の変遷を紹介します。

日時：8月4日(木) / 場所：博物館1階 講堂

◎平塚市博物館のプラネタリウム40年

内容：平塚市博物館におけるプラネタリウム番組の作成方法や投影手法の変遷を紹介します。
日時：8月5日(金) / 場所：プラネタリウム室

◎相模川「再発見」の歴史をたどる

内容：この40年で、地質学の進歩と共に相模川の価値がどのように見直されてきたかをたどります。
日時：8月6日(土) / 場所：博物館1階 講堂

◎写真でたどる平塚市の歴史ー博物館ができるまで

内容：平塚市の誕生から博物館開館までの歴史を写真でたどります。
日時：8月7日(日) / 場所：博物館1階 講堂

☆：プラネタリウム投影 ○：申込制行事 ◎：参加自由

寄贈品コーナー展示

会場：博物館1階 寄贈品コーナー

◎寄贈品コーナー「河内の箱屋ー吉川順郭の仕事ー」

内容：市内河内に在住の竹細工職人である吉川順郭(まさひろ)氏が製作した籠や笥などの竹製品を、人生や仕事について語る氏の言葉とあわせて展示紹介します。

会期：7月14日(木)まで

◎寄贈品コーナー「平塚空襲展」

内容：写真・資料で平塚空襲の実態を紹介します。

会期：7月16日(土)から8月21日(日)まで

◎寄贈品コーナー「セミのぬげがら調べ」

内容：昨年実施した「みんなので調べようーセミのぬげがら調べー」の成果をご覧ください。
会期：8月25日(木)から9月8日(木)まで

プラネタリウム

観覧料：200円(18歳未満・65歳以上無料)、定員：70名

☆プラネタリウム一般向け番組「フリートーク・プラネタリウム」

内容：担当学芸員が毎回自由にテーマを設定してお送りします。内容は当日までお楽しみに！

投影日：7月10日(日)までの土・日曜日

時間：午前11時 午後2時 ※土曜日 午前11時の回を除く

☆プラネタリウム幼児向け投影「ほしみるおじさん」

内容：はじめての子どもにもわかりやすく伝える宇宙のおはなし。同名の絵本が原作です。

投影日：7月9日(土)までの土曜日、および8月以降の第2・第4土曜日 / 時間：午前11時

※「親子ほしぞろタイム」：7月9日(土)まで。小学生以下のお子さんどうぞ一緒のお母さんお父さんの観覧料が無料になります。

☆プラネタリウム特別投影「館長の星空解説！いつもの星空」

内容：見上げればいろいろな星があるのに、決してどこかかない…そんな星空をもっと身近にする、博物館長の星空案内。

投影日：7月9日(土) / 時間：午後3時30分

☆プラネタリウム一般向け番組「賢治が綴った星空」

内容：宮沢賢治が童話の中に綴った星たちの世界をご紹介します。

投影日：7月16日(土)から9月25日(日)までの土・日曜日、および7月21日(木)～8月25日(木)まで

時間：午前11時、午後2時

☆星空と音楽の夕べ

内容：クラシック音楽を聴きながら美しい星空を鑑賞します。

投影日：7月16日(土)・8月21日(日) / 時間：午後4時

平塚市博物館

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 電話：0463-33-5111 Fax:0463-31-3949
ホームページ：http://www.hirahaku.jp/

申込制の行事

往復はかき(104円)に氏名・住所・電話番号を書いて、締切日までに博物館宛に応募して下さい。

○みんなで調べよう！ 2016 ～セミのぬけがら調査～

内容：セミのぬけがらから記録して、平塚市内に生息するセミの種類と分布を調べます。平塚市博物館と平岡幼稚園の協働事業です。
調査期間：7月17日(日)～8月23日(火)

[講習会]：7月17日(日)、7月21日(木)いずれかの日程で受講 (場所：博物館)、[合同調査]：7月24日(日)(場所：野外)、[まとめ]：8月23日(火)(博物館)
対象：一般(小学生以下は保護者同伴) / 定員：50名(応募多数時抽選)

○自然観察入門講座「貝化石を調べよう」

内容：大磯海岸で地層や貝化石を調べ、大地の生い立ちを学びます。
日時：7月28日(木)午前9時～午後3時(雨天中止)
場所：大磯海岸
対象：小学校3年生以上 / 定員：20名(応募多数時抽選)
締切：7月18日(月)当日消印有効 / 参加費：100円

○体験学習「縄文人になろう」

内容：火起こしや弓矢の体験を通して縄文人の技に迫ります。
日時：8月12日(金)午前10時～午後4時
場所：博物館1階 科学教室
対象：小学校4年生～中学校3年生 / 定員：20名(応募多数時抽選)

○体験学習「河原の石ころ図鑑をつくらう」

内容：相模川の川原石を使って石ころ図鑑を作ります。
日時：8月16日(火)、8月18日(木)午前9時から午後4時(両日参加が必要)
場所：神川橋河川敷(雨天時博物館講堂)・博物館講堂
対象：小学生～高校生 / 定員：20名(応募多数時抽選)

○☆プラネタリウム朗読「宮沢賢治の世界」

内容：宮沢賢治作品などの朗読を、プラネタリウムの星空や映像の下で聞きながら、宮沢賢治の世界を体験します。

出演：郷田ほづみ(湘南アトロ☆デラルテ)ほか
日時：8月19日(金)(1)午後3時～(2)午後7時～ 各回90分程度 開場は30分前
場所：博物館3階 プラネタリウム室 / 定員：60名(応募多数時抽選)

○体験学習「体験！宇宙飛行士選抜試験」

内容：宇宙飛行士を選ぶときの試験をちよつとだけ体験してみよう。
日時：8月23日(火)午後1時30分から午後4時
場所：博物館1階 講堂 / 定員：20名(応募多数時抽選)

○☆雑貨団シアトリカル・プラネタリウム「メタモオ」

内容：雑貨団が提供するシアトリカル・プラネタリウムの第34弾。演劇・映像・音楽、そしてプラネタリウムが一体となったステージが展開されます。
場所：プラネタリウム室 / 観覧料：200円(18歳未満65歳以上無料)
日時：8月26日(金)(1)午後2時30分～午後4時、(2)午後6時30分～午後8時
申込：8月9日(火)午前10時より電話申込。 / 定員：60名(先着順)

○自然教室「夕方の鳥たちをみよう」

内容：夏の夕方の鳥たちの生活を、水辺やその周辺を観察します。
講師：こまつん
日時：8月27日(土)午後3時30分～午後5時30分(雨天中止)
場所：高麗大橋～平塚大橋付近の花水川・金目川
定員：15名(応募多数時抽選) ※小学生以下は保護者同伴のこと
締切：8月12日(金)当日消印有効

自由参加の行事

◎スターウォッチング入門講座・夏

内容：星空をちよつと眺めたい人や、これから星を見始めたい人のための入門講座です。流れ星の観察方法や天の川の見やすい場所を紹介します。
日時：7月2日(土)午後3時30分～午後5時 開場は午後3時15分
場所：博物館1階 講堂 / 定員：50名(先着順)

◎ろばたばなし

内容：民家のいろはばたで昔話を語ります。
日時：7月17日(日)、8月21日(日) (1)午後1時20分、(2)午後3時
場所：相模の家

◎君もプラネタリアン

内容：プラネタリウムの星座解説に挑戦してみたい小学生集まれ！ / 場所：プラネタリウム
日時：7月21日(木)、8月4日(木)、8月18日(木) 午前9時30分～午前10時15分
対象：小学生 / 定員：20人(当日午前9時より受付にて整理券を配布、先着順)

◎星を見る会(雨天曇天中止；中止判断は午後5時)

-「肉眼5惑星をすべて見る!？」
内容：水星、金星、火星、木星、土星の5惑星が夕方の空に大集合。
日時：7月29日(金)午後7時～午後8時30分 / 場所：博物館1階 科学教室・屋上

-「伝統的七夕を楽しむ」

内容：この日は伝統的七夕(旧暦七夕)。七夕の星や半月手前の月を観察しましょう。
日時：8月9日(火)午後7時～8時30分 / 場所：博物館1階 科学教室・屋上

-「火星と土星、アンタレスの接近を見よう」

内容：“火星に対抗するもの”という名を持つアンタレスと火星、そして土星が、8月下旬に夜空で一室に会います。その様子を観察しましょう。
日時：8月24日(水)午後7時～午後8時30分 / 場所：博物館1階 科学教室・屋上

◎ジュニア天文教室

対象：小学校3年生～中学生(保護者の見学は可能) / 定員：30名(先着順)

-「星座博士になろう」

内容：星座について、クイズやゲーム、工作をしながら楽しく学びます。
日時：8月7日(日)午後3時30分～午後5時 / 場所：博物館1階 講堂

-「惑星博士になろう」

内容：太陽系の惑星について、クイズやゲーム、工作をしながら楽しく学びます。
日時：8月21日(日)午後3時30分～午後5時 / 場所：博物館1階 講堂

3館コラボ企画「夏休み 美術館・図書館・博物館でトリックを楽しもう！」

◎3館コラボレーション企画展「錯視錯覚の科学」
内容：人間の脳や光のトリックで起きる錯視や錯覚の不思議な科学します。
会期：7月2日(土)から10月7日(金)まで / 会場：博物館2階 情報コーナー

◎体験学習「不思議な板で万華鏡を作ろう」

内容：偏光板といふ不思議な板を使って万華鏡を作ります。
日時：7月22日(金)、7月29日(金)(1)午前10時～午前11時30分、(2)午後1時～午後2時30分
場所：博物館1階 科学教室 / 定員：20名(当日午前9時より受付にて整理券を配布、先着順)

◎体験学習「ペンハムのコマを作ろう」

内容：白黒の色の見えるコマを作ります。
日時：8月4日(木)午後1時10分～午後1時50分 (実施時間中は何時からでも参加可能)
場所：博物館2階 情報コーナー

◎体験学習「ボールが壁をすり抜ける!？ブラックウオールを作ろう」

内容：壁があるのにボールがすり抜ける不思議な箱を作ります。
日時：8月18日(木)午後1時10分～午後1時50分 (実施時間中は何時からでも参加可能)
場所：博物館2階 情報コーナー

平塚市美術館では7月2日(土)～8月28日(日)に、「開館25周年記念 不思議なアート トリック トリック ハッ!と トリック展」を開催します。文化ゾーンの3館ではこの企画展にあわせて、夏休み期間中に、コラボレーションしたイベントを開催します。

平塚市美術館

(問合せ先：0463-35-2111)

松本かなこ氏(スリートペインター)による公開制作

制作日 7月17、18、20～23、27日

時間 10:00～16:00、場所 美術館テーマホール

*見学無料、写真撮影可

担当学芸員によるギャラリートーク

日時 7月10日(日)、8月7日(日) 14:00～14:40

場所 展示室I *申込不要、要観覧券

平塚市中央図書館

(問合せ先：0463-31-0415)

3館コラボ記念展示「不思議！トリック・錯覚の世界」

展示期間：7月1日(金)～8月30日(火)

平塚市博物館

(問合せ先：0463-31-3949)

3館コラボレーション企画展「錯視錯覚の科学」

展示期間：7月2日(土)～10月7日(金)

会場：2階 情報コーナー

内容：人間の脳や光のトリックで起きる錯視や錯覚の不思議を科学します。

体験学習「不思議な板で万華鏡を作ろう」

日時：7月22日(金)、29日(金)

10:00～11:30/13:00～14:30

会場：科学教室

定員：20人(当日午前9時より受付にて整理券を配布、先着順)

内容：偏光板という不思議な板を使って万華鏡を作ります。

ワークショップ「チョークで道に海の生きものを描こう!!」

講師 松本かなこ氏 日時 7月29日(金) 13:00～16:00

場所 美術館レストラン側入口 *自由参加、参加費100円

ワークショップ「ジェルキャンドルにお魚を描こう!!」

講師 深堀隆介氏(美術作家)

日時 7月31日(日) 13:30～16:30 場所 美術館アトリエ

対象 小中学生24名(小学校1、2年生は保護者同伴)

*要申込(7月14日まで)、参加費800円 詳細はHPまで

① パネル展示、トリックアート展示、場所 1階ホール

内容：錯視のしくみや実際に遊べるトリックアートを展示

② 関連図書の展示、場所 こども室、貸出室

内容：トリックアートや錯覚のしくみなどの図書を展示

*展示する図書は借りることができます

体験学習「ベンハムのコマを作ろう」

日時：8月4日(木) 13:10～13:50

(実施時間中は何時からでも参加可能。10分程度で作れます。)

会場：2階 情報コーナー

内容：白黒なのに色が見える!?不思議なコマを作ります。

体験学習「ボールが壁をすり抜ける!?ブラックウォールを作ろう」

日時：8月18日(木) 13:10～13:50(実施時間中は何時からでも

参加可能。10分程度で作れます。)、会場：2階 情報コーナー

内容：壁があるのにボールがすり抜ける不思議な箱を作ります。

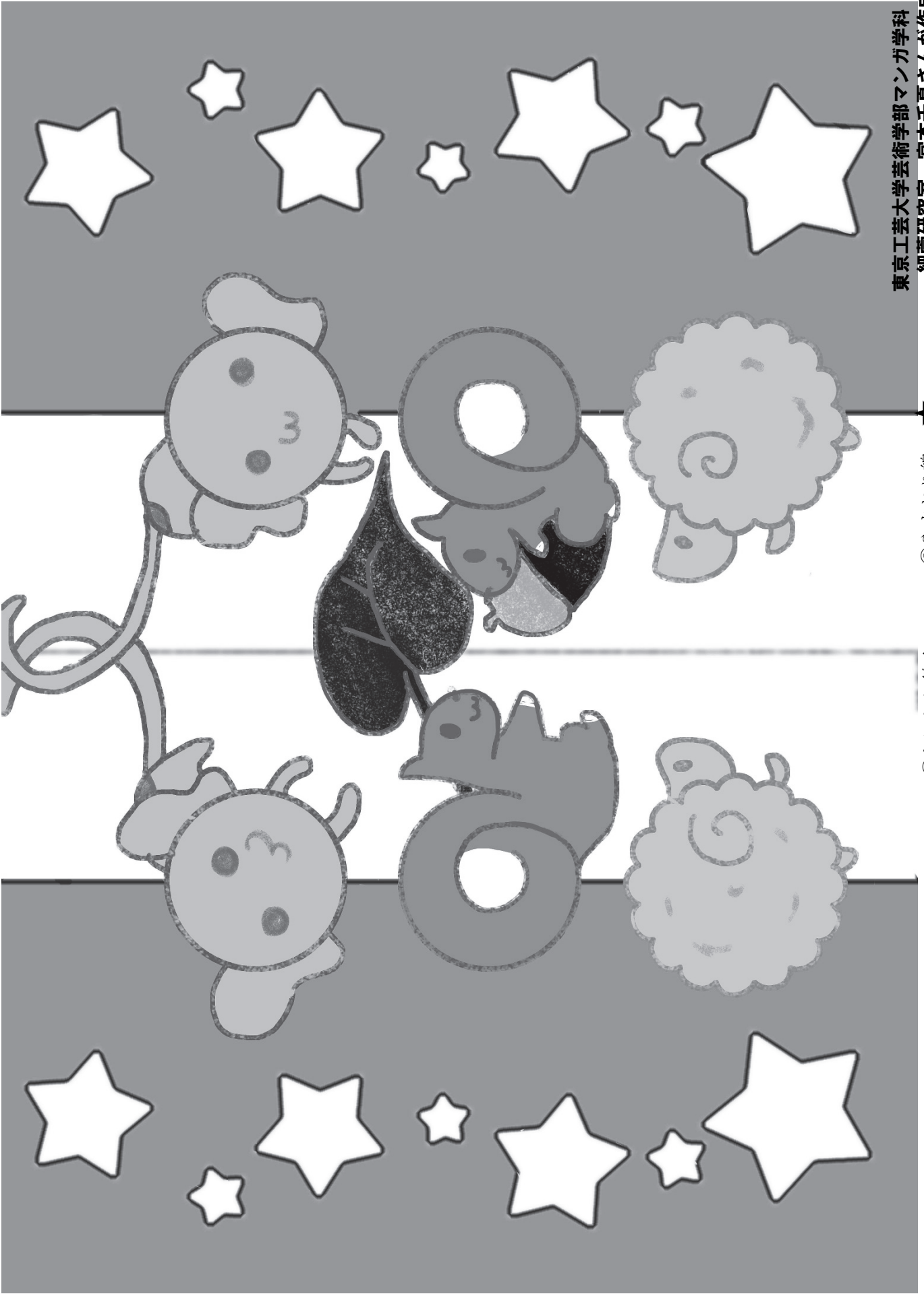
お 折いかわい絵を作ってみよう!

「折いかわい絵」とは、線に合わせて折ることで、一枚の紙に描かれた絵が、別の絵に変わるおもちゃ絵のひとつです。

《作り方 ①まん中の線をたにおりにする ②★の線をやまおりにする》

↓①たにおり線

★ ←②やまおり線



①たにおり線↑

②やまおり線→★

平塚市博物館 28年度秋期特別展
「知られざる平塚のロケット開発」概要

1. 日程 平成28年10月22日(土)～12月18日(日)

2. 会場 特別展示室

3. 展示概要

日本のロケット技術は戦後ゼロから始まったと広く知られているが、戦前の平塚にはロケット推進薬の開発・生産拠点となった海軍火薬廠があった。火薬廠ではロケット推進薬の成形技術が開発され、日本の固体ロケット技術の基礎になった。この技術は戦後、日本の宇宙開発の父である東大生産技術研究所の糸川英夫教授に受け継がれ、ペンシルロケットからカッパ4型ロケットに至るまでの日本のロケット開発黎明期を支えた。平塚の地では現在でも、各企業や大学を中心に各種ロケット用製品や次世代のロケット技術が生み出されている。

本展示では、第1章で今日まで残された研究ノートや論文を紐解き、火薬廠におけるロケット開発の歴史を振り返る。第2章では戦後、火薬廠から糸川教授にどのように技術が渡ったのか、ロケット技術の変遷を概観する。第3章では、株式会社横浜ゴム、株式会社日本特殊塗料、株式会社日本ムークにご協力いただき、現在の平塚市で製造されているロケット製品についてご紹介する。また、東海大学、神奈川大学にもご協力いただき、学生が取り組んでいる新しいハイブリッドロケットについてご紹介する。

4. 展示構成

第一章：平塚から始まった日本のロケット

第二章：戦後に伝わったロケット技術

第三章：現在における平塚のロケット

5. 主な展示物

約120点

海軍火薬廠で刊行された各種論文や研究ノート、噴進弾や中型圧出機の図面、ロケットの実機や模型、ロケットの写真や打ち上げ映像、各メーカーのロケット製品など

6. 関連事業

【講演会】全2回 場所：博物館3階 プラネタリウム室

定員：70人(先着順) 参加：自由

・日本のロケットの歴史

日時：11月12日(土)午後3時30分～5時

講師：的川泰宣(JAXA 名誉教授)

・大学のハイブリッドロケット開発

日時：12月18日(日)午後3時30分～5時

講師：東海大学・神奈川大学学生

【宇宙開発講座】全2回

内容：オリジナルの宇宙ロケットやミッションを設計します。

講師：藤井大地(当館学芸員) 定員：50人(先着順)

場所：博物館1階 講堂 参加：自由

・第1回 宇宙ロケットを設計しよう

日時：10月23日(日)午後3時30分～5時

- ・第2回 宇宙ミッションを組み立てよう

日時：11月6日（日）午後3時30分～5時

【特別展展示解説】

日程：10月23日（日）、11月20日（日）、12月10日（土）

時間：午後1時～1時45分 場所：特別展示室 参加：自由

【秋のイブニングミュージアム】全6回

内容：開館時間を午後7時まで延長して、「宙(そら)をとぶ」をテーマに各分野で講演します。また全天周映像番組「銀河鉄道の夜」の投影を毎日行います。

★講演

場所：博物館1階 講堂（29、30日のみプラネタリウム）

定員：50人（先着順） 参加：自由

時間：午後6時～6時50分（入館は午後6時30分まで）

- ・第1回 飛道具と戦

日時：10月25日（火）講師：栗山雄揮（当館学芸員）

- ・第2回 龍勢祭—手作りロケットの打ち上げ

日時：10月26日（水）講師：浜野達也（当館学芸員）

- ・第3回 宙から良弁がやってきた—市指定文化財大山寺縁起絵巻をよむ

日時：10月27日（木）講師：早田旅人（当館学芸員）

- ・第4回 山から飛来するもの—どこからくる？どれくらいくる？

日時：10月28日（金）講師：野崎篤（当館学芸員）

- ・第5回 ロケット打ち上げを体感しよう—プラネタリウムでロケット映像鑑賞会

日時：10月29日（土）講師：藤井大地（当館学芸員）

- ・第6回 宇宙への歩み—科学と実用

日時：10月30日（日）講師：鷹 宏道（当館学芸員）

★プラネタリウム特別投影

投影番組：全天周映像番組「銀河鉄道の夜」

日程：10月25日（火）～10月30日（日）

時間：午後4時～午後5時 場所：プラネタリウム

観覧料：200円（18歳未満65歳以上無料）

定員：70人（午前9時より1階受付にて当日分の観覧券を販売、先着順）

【JAXA コズミックカレッジ・キッズコース】全7種9回

内容：身近なものを使って簡単なロケットのおもちゃを作り、ロケットの原理を学びます。

講師：藤井大地（当館学芸員） 場所：博物館1階 科学教室

定員：各回15人（開始30分前に科学教室前で整理券を配布）

対象：小学生以下（幼児は保護者同伴） 参加：自由

- ・ストローロケットを作ろう

日時：10月22日（土）午後1時～1時30分

12月4日（日）午後1時～1時30分

- ・傘袋ロケットを作ろう

日時：10月22日（土）午後3時30分～4時

12月4日（日）午後3時30分～4時

- ・紙コップロケットを作ろう

日時：10月30日（日）午後1時～1時30分

- ・フィルムケースロケットを作ろう

日時：10月30日（日）午後3時30分～4時

- ・風船ロケットを作ろう

日時：11月5日（土）午後1時～1時30分

- ・わりばしロケットを作ろう

日時：11月5日（土）午後3時30分～4時

- ・スーパーボールロケットを作ろう

日時：11月20日（日）午後3時30分～4時

【JAXA コズミックカレッジ・ファンダメンタルコース】

火薬ロケットカーを作ろう

内容：火薬を用いたロケットを作ってロケットの原理を学びます。

講師：藤井大地（当館学芸員）

場所：博物館1階 科学教室・屋上

日程：11月13日（日）、19日（土）、27日（日）、12月3日（土）のいずれか

時間：午後1時30分～4時30分

参加：往復はがきに住所、氏名、学年、電話番号、希望日時を記入し、11月4日（金）（消印有効）までに申込。

定員：各回20人（応募多数時抽選）

対象：小学3年生～高校生 材料費：700円

雨天時：工作のみ実施。打ち上げは後日日程調整。

【プラネタリウムでロケット打上げ生中継】

日時：11月1日（火）午後3時～3時30分

場所：3階プラネタリウム室

定員：70人（打上げ延期の場合、実施できないことがあります）

参加：自由

打上げロケット：H-IIA31号機

搭載衛星：ひまわり9号

打上げ予定時刻：午後3時20分

7. 会期中の他の天文イベント

★プラネタリウム一般投影「不思議な星と悪魔の星」 10月1日（土）～ 11月27日（日）

★プラネタリウム一般投影「2017年の天文現象」 12月3日（土）～ 1月29日（日）

★プラネタリウム幼児投影「ほしみるおじさん」 第2・第4土曜日

★プラネタリウム特別投影「星と音楽の夕べ」 時間：午後4時～5時

日程：10月16日（日）、11月19日（土）、12月17日（土）

★プラネタリウム特別投影「館長の星空解説 いつもの星空」

日時：12月18日（日）午後3時30分～4時30分

★星を見る会「秋の星を見よう」

日時：11月4日（金）午後7時～8時30分 参加：自由 場所：科学教室・屋上

8. 印刷物

- ポスター B3版片面 カラー 500部
- リーフレット A4版両面 カラー 3000部
- 図録 A4版56頁 カラー 1000部

9. 外部依頼

- 看板類（大1、長2）

平塚市博物館における調査研究活動について

■平塚市博物館の活動理念【地域博物館】

3. 建設の「趣旨・目的・性格」

45年8月に委嘱された博物館建設研究調査委員会では、「文化センター基本構想」を土台に博物館の構想が検討され、46年2月に「趣旨・目的・性格」がまとめられた。館の建設は大すじにおいて、これの上になりたっている。

趣旨 本市は神奈川県のはぼ中央南部に位置し、現在の市域のほとんどは、沖積地の上の開けた砂丘地帯である。こうした地形から、かなり古い時代から、すでに街道に沿っていたようである。特に江戸幕府によって伝馬制度が確立された際には、東海道の一宿駅として形態が整い、これが本市発展の基礎となったといえよう。

日本の歴史の上からは、本市について特筆すべきものは少ない。したがって史跡や文化財には比較的恵まれていない。しかし、市民がより価値のある生活を営むことを願い、さらに将来への伸展を期待して、郷土の過去および現在に何ものかを求める場合、必要なものはそのような史跡や文化財のみでなく、ひろく、自然・社会・人文にわたる総合された平塚の姿であろう。

一方、産業技術の高度の発達に伴い、人間の生活までも変革を余儀なくされている。こうした中において、市民の教育文化への関心はますます高

まりつつあり、文化活動は活発に行なわれている。

こうした市民にこたえ、市民の教養の場・市民の憩いの場を提供するために博物館を設置していくものである。

目的 市民が、みずからの生活の場を、自然的にあるいは文化的に展望することにより、現状を見つめ、将来の夢を育て、さらに市民としての自覚と誇りを持つことをたすけ、精神的な豊さを得られるような場を提供し、あわせて望ましい人間形成に資することを目的とする。

性格 本市をとりまく地域の歴史をさぐり、現在を明らかにするとともに、将来のくらしと文化を創造する核として、特色のある地方博物館の性格を持つものである。

- (1) 市図書館・県立青少年会館とともに、地域文化振興のセンターを形成する。
- (2) 文化財・文化的資料等の収集、保存、展示、教育、研究の場としての機能をもたせる。
- (3) 市民の教養と生活に密着した実物教育機関として、自然・歴史・民俗・美術・科学などの部門をもった総合博物館とする。
- (4) 特に、街道関係資料の収集、保存につとめる。
- (5) 学童の科学教育部門に意を用いる。

4. 地域博物館の構想

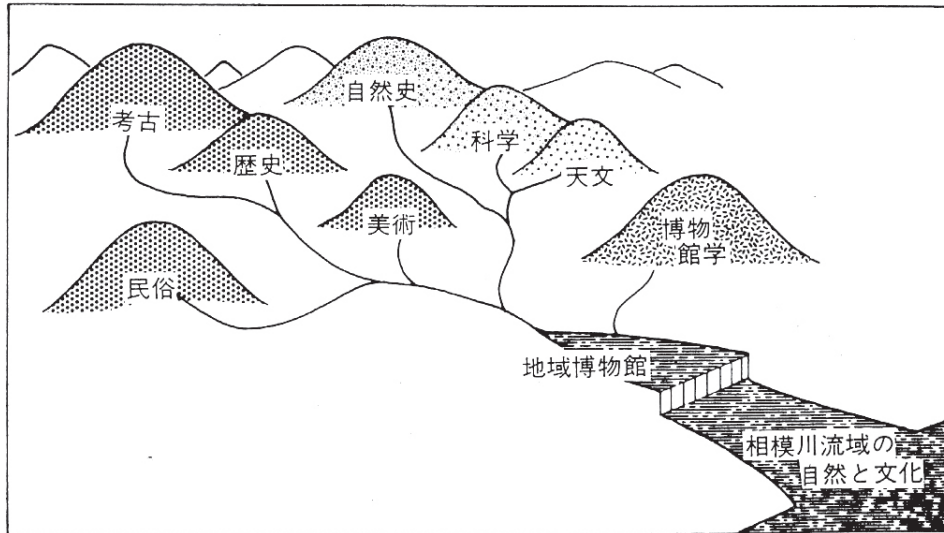
「文化センター基本構想」と「趣旨・目的・性格」を受けて、具体的な館建設の仕事を開始した博物館建設準備室では、「新しい地域博物館づくり」を掲げて、建築・展示・運営のプランニングにあたっていった。

従来、地方都市の博物館は、考古・民俗などの単科博物館で、しかも行政区域の中だけの資料を扱うものとして計画されるケースがほとんどであった。しかし現実の生活の中においては、自然条件と人間生活は切り離せない関係にあり、専門家ではない一般市民にとっては、一つの事柄を学問分野にとらわれないいろいろな見方から知ること

のできるような博物館こそ必要ではないかと考えた。そうした博物館は、「総合博物館」と呼ばれるべきものだが、一般に数部門の展示室が併設されている館が、安易に総合博物館と呼ばれてきたようである。平塚では、各分野の視点を複合させた展示や普及活動、さらには調査研究を行なう真の「総合博物館」を目標としたわけである。

また、地域博物館として地域の資料に立脚するのは当然のことだが、自然でも人文でも、行政区画にとらわれた狭い視野では把握できないことが多い。さらに、平塚に通勤する昼間人口をも対象にすることを考えると、より広い地域を館のフィ

図3 地域博物館の構想



シンボルマーク
(デザイン 木田 元)

ールドにする姿勢が必要と考えた。そこで地理学的な相模川流域に金目川流域を含んだ「相模川流域」を、調査研究を始めとする館の諸活動のフィールドとすることを計画した。

相模川流域をフィールドとする総合博物館として、その課題を、館のテーマとして明確に打ち出すことにし、「相模川流域の自然と文化」をそのテーマとした。館のシンボルマークはこのテーマを表現するものとして、デザインされたものである。

また、平塚市博物館は、観光地や大都会に立地した博物館ではないので、地域の市民に何度も足を運んでもらうような密接なつながりが、絶対条件として要求される。そのため、常設展示だけでなく、活発な教育普及活動を行なうこととし、特別展示室、科学教室などの部屋を意図的に設けた。学芸員の採用を、準備段階から重視したことも、市民とのつながりを保障する条件整備の一つであった。

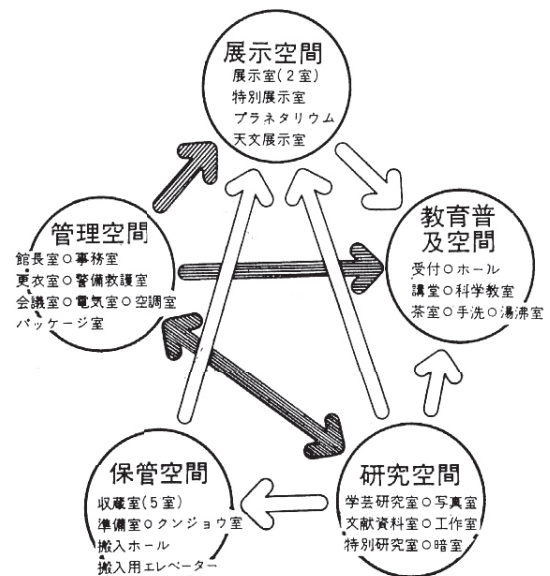
教育普及活動を重視し、テーマを持つ総合博物館としての「地域博物館」という構想は、全国的にもモデルのない新しい構想であり、準備室開設後間もない時期に打ち出され、徐々に詰められていったこの構想が、建設準備のプロセスの基本的な理念となった。

館の建築・展示・運営の計画にあたってはこうした基本構想と、博物館の機能図・空間構造図な

どを資料として準備し、検討を進めていった。図4は、建築計画のもとになった空間構造図である。

博物館づくりの過程では、建築・展示・運営計画のすべてがからみ合って進行しなければ、機能的な館は望めない。そのため、運営計画・人員配置計画・備品購入計画なども第1次案を早期に提出し、建築設計にもそれが反映されるようにした。各計画は、関連づけながら度々修正し、関係各位の審議を受け、最終案につめていった。

図4 博物館の空間構造



■平塚市博物館の調査研究活動計画

分野	テーマ	成果の発表・活用			連 携		
		特別展他	論文	刊行物	市民協働	市、行政	他機関
考古	市内・市外・県外遺跡の調査	●			△		
	相模国府の分析研究				△	○	○
	相模国庁の分析研究		○		◎		
	五領ヶ台貝塚資料の整理		○	○	◎	○	△
	中世城館の分析研究		●				
歴史	平塚空襲と戦時生活に関する実態調査	◎		◎	◎	○	
	開港期の地域社会の研究			◎	◎		○
	平塚地域教育史の研究	○		△		△	
	維新期の地域社会の研究	○	○	○			○
民俗	道祖神信仰の研究	●		●			
	館蔵民具資料の撮影とデータベース化				△		
	相模の祭囃子の調査研究		◎		△		△
	平塚市の石造物調査	●	●	●	◎		△
	市域民俗調査の記録			◎	◎	△	
	『市民が綴る郷土の記録』の刊行				◎		
生物	神奈川県植物誌調査			○	○	△	◎
	平塚大磯における蘚苔類の調査	○	◎		○	◎	△
	平塚市周辺地域のキノコ類の調査			○	○		△
	相模川流域のミズダニ類の調査		○	○			
	自然史標本データベースへの標本情報登録			○			◎
地質	未固結標本（6Q）の整理と目録化			○	△		
	丹沢・大磯・湘南地域の第三系地史のまとめ		○	○	◎	○	
	相模湾広報航海連絡協議会への参加	●					○
	ボーリング資料（6B）の整理			○	◎	○	
	化石固結標本（6F）の整理と目録化				○		
	金目川水系の地盤に関する地下構造の解明	○					◎
	湘南地球科学の会での情報収集						○
天文	太陽活動の調査と資料収集	◎	○	○			
	天体写真資料の収集	●			△		
	天体写真資料の収集（撮影）	●			○		
	市域の星の見え具合の調査と記録				◎	○	◎
	天文にまつわる民俗・史跡の調査			○	◎		○
	プラネタリウムにおける科学教育機能の調査研究	○	○		○	○	○
	プラネタリウム機器・投影方法の調査	○					○
博物館	OA機器の調査						
	情報システムの研究	○			△		△

※成果の発表活用

展示・行事等・・・特別展・常設展等の展示やプラネタリウム・HP他を含む普及事業での活用

●：当該年度に活用 ◎：数年内に活用 ○：将来に活用

論 文…『自然と文化』誌などを通じた発表

●：当該年度に発表 ◎：数年内に発表 ○：将来に発表

刊 行 物…資料目録・調査報告書など

●：当該年度に刊行 ◎：数年内に刊行 ○：将来に刊行

※連携

市民協働

◎：館と市民が共同で実施 ○：市民が主体的に取り組み館は支援 △：必要に応じ市民の協力を求める

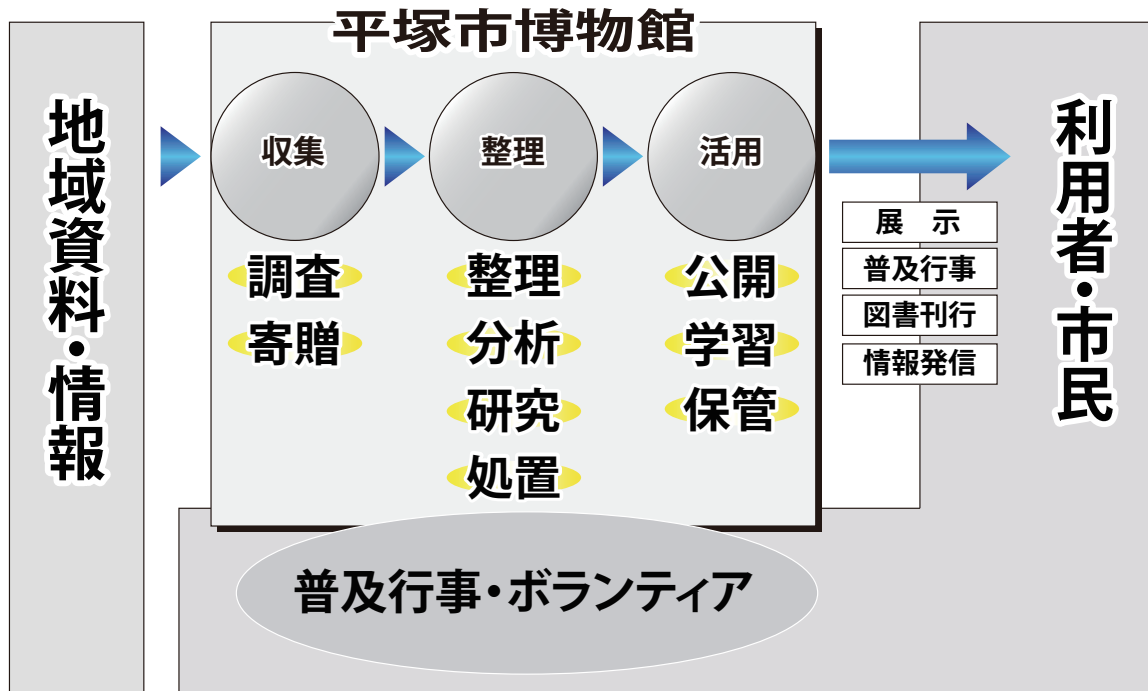
市・行政

◎：市役所他部局の事業に大きく貢献 ○：他部局の事業に情報提供などの協力 △：他部局との情報共有

他 機 関

◎：他市町村・他博物館・大学などとの共同事業 ○：他市町村・他博物館・大学などとの連携 △：他市町村・他博物館・大学などとの情報共有

■平塚市博物館の活動モデル



■調査研究に関わる普及行事開催状況（平成27年度実績）

分野	活動内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
考古	古代生活実験室	回数	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
		人数	11	11	12	7	5	7	7	7	7	5	5	4	7	88
	東国史跡踏査団	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		人数	24	17	16	18	15	17	19	17	10	11	11	12	15	191
	平塚の古代を学ぶ会	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
		人数	15	14	16	9	12	9	9	8	9	9	6	6	6	122
歴史	地域史研究ゼミ	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		人数	6	6	6	6	6	6	5	5	5	6	6	6	6	69
	平塚の空襲と戦災を記録する会	回数	7	4	2	1	4	1	1	1	1	2	2	4	1	30
		人数	41	21	12	10	23	11	8	16	26	21	58	10	10	257
	裏打ちの会	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		人数	9	9	9	11	8	7	9	9	10	9	10	8	8	108
民俗	お囃子研究会	回数	2	4	3	3	2	2	2	2	2	2	2	3	2	29
		人数	19	32	23	17	11	11	7	5	5	3	18	12	12	163
	石仏を調べる会	回数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	14
		人数	21	19	16	17	16	18	29	16	17	16	28	14	14	227
	聞き書きの会	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	4	7	23
		人数	6	8	8	6	6	6	6	5	11	10	18	30	120	
	平塚石仏の会	回数	1	1	1	1		1	1		1			1	1	9
		人数	15	15	16	15		12	11		10			9	15	118
	民俗探訪会	回数	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	15
		人数	22	31	16	15	21	19	17	15	16	26	27	16	16	241
生物	みんなで調べよう セミのぬけがら	回数				3	1								4	
地質	相模川の生い立ちを探る会	回数	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
		人数	13	11	15	0	14	13	13	10	9	9	8	17	132	
	地質調査会	回数	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
		人数	4	4	4	4	4	4	4	3	2	3	4	4	44	
天文	みんなで調べよう ひらつか星空調査隊	回数		1								5	3		9	
		人数		25								61	58		144	
	星まつりを調べる会	回数	1		1	1	1	1	1	2	1	1	1		11	
		人数	10		8	7	7	9	5	15	8	7	5		81	
	天体観察会	回数	4	5	5	4	5	3	3	3	5	5	4	3	49	
		人数	81	93	59	67	70	57	53	50	52	74	28	40	724	
		回数	26	27	24	24	23	18	19	18	27	25	28	23	282	
		人数	297	316	236	282	235	206	202	181	256	267	241	200	2919	

「ひらつか星空調査隊 2014」活動報告

塚田 健*

Reports of “Hiratsuka Hoshizora Expedition 2014”

Ken TSUKADA*

1. はじめに

人工光の漏出は周囲の自然環境に様々な影響を及ぼし、それを光害という。影響の一つが、漏れ光が大気中の微粒子で拡散されて夜空が明るくなることであり、その程度を「夜空の明るさ」と呼んでいる。平塚市博物館（以下、当館）では、環境庁（現・環境省）が実施していた「全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）」に開始当初から参加していたが、同調査は平成 25 年度に終了をしてしまった。それを受けて当館では、市民が参加する形で広く市域全体の「夜空の明るさ」調査を行うことを目的に、『ひらつか星空調査隊』を平成 26 年度に立ち上げた。当館ではこれまでも市民参加による市内の生物相調査などを行った実績があり（「みんなで調べよう！シリーズ」、本調査はその一環でもある。最初の調査は平成 27 年 1 月～2 月にかけて行い、本稿ではその結果について報告する。

2. 光害（光もれ害）とは

人口光が過度に漏出し周囲の自然環境に様々な影響を及ぼすことを光害という。環境省のガイドラインによれば、光害とは「良好な照明環境の形成が、漏れ光によって阻害されている状況又はそれによる悪影響」と定義されている。光害の影響は農作物の生育不良や人間の睡眠障害など様々だが、その中に天体観察への影響（星が見えにくくなる）というものがある。これは過度な漏れ光のみならず大気中の微粒子の増加（大気汚染）も影響している。平塚市内においても 60



図 1. 国際宇宙ステーションから撮影された首都圏の夜景 [NASA]
平塚市は都心から 50 km ほど離れており、市内には里山や農地が広がる地区も多いが、光害の影響はかなり大きい。

～70 年ほど前は市内で天の川が見える場所が少なからず存在していたが現在はほとんどなく、当館の活動である「星を見る会」や「天体観察会」にも大きな影響を及ぼしている。当館では特別展の開催やプラネタリウム投影などを通じて、夜空（星）を見上げ、来館者と宇宙のつながりを認識しても

らい、宇宙における自己の位置づけやこの世界（宇宙）のしくみや成り立ちを知ってもらいたいと考え活動しているが、その根本である「夜空を見上げて星を見る」という行為が、市民が日常生活を送る平塚市域において、光害（光もれ害）によって難しくなっている現状がある。

3. 「ひらつか星空調査隊」の概要

「ひらつか星空調査隊」の目的は「みんなで調べよう！」シリーズの一つとして、市域全体の光害の実態＝夜空の明るさを高分解能で調査することにある。そのためには広く市民の方々に参加していただく必要があり、ある程度精度を犠牲にしても簡便な方法を用いる必要がある。そこで、「オリオン座観察カード」を

*平塚市博物館

キーワード：天体観測・光害

用意し、それを実際に夜空と見比べ、どのカードが近いかを判定し報告してもらうことにした。これは国際ダークスカイ協会が実施している Globe at Night とほぼ同じ方式である。オリオン座は最も知られた星座の一つで夜空で見つけることが容易なこと、オリオン座には明るい星から暗い星までまんべんなく含まれていること、オリオン座が出ている期間は晴天率が高い冬であることなどからその天域を選択した。

観察期間は1月10日(土)から1月24日(土)にかけてと2月8日(日)から2月22日(日)のそれぞれ20時から21時とした。これは月明かりがなく、調査域であるオリオン座が高く昇っている時間帯である。

入隊申し込みをした参加者には隊員証を発行、昼と夜の2回の講習を受けた後に調査を行ってもらった。講習受講後と観察後には隊員証にスタンプを押印した。昼の講習では光害についての解説と調査の概要説明、プラネタリウムを用いた練習を行い、夜の講習では博物館の屋上で実際の星空の下での調査練習を行った。調査はそれぞれ自宅前で行ってもらい、さらに余力がある場合は複数地点の観察をすることとした。

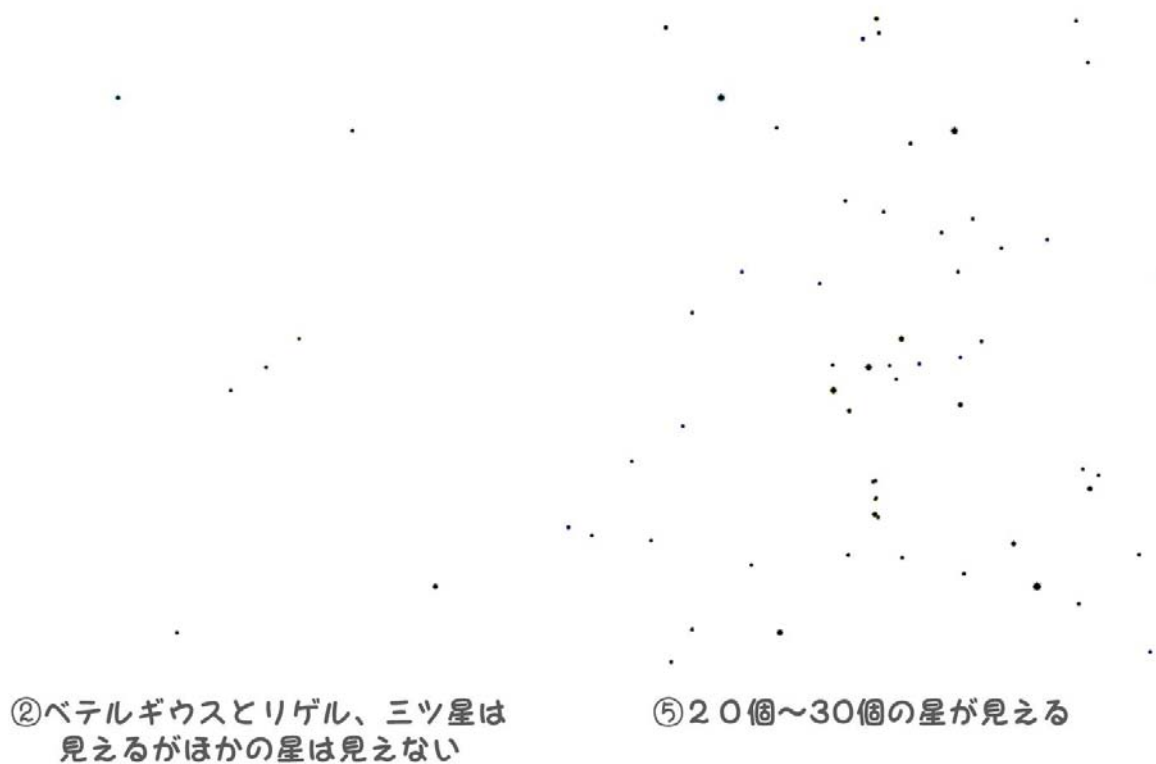


図2. 「ひらつか星空調査隊」オリオン座観察カード

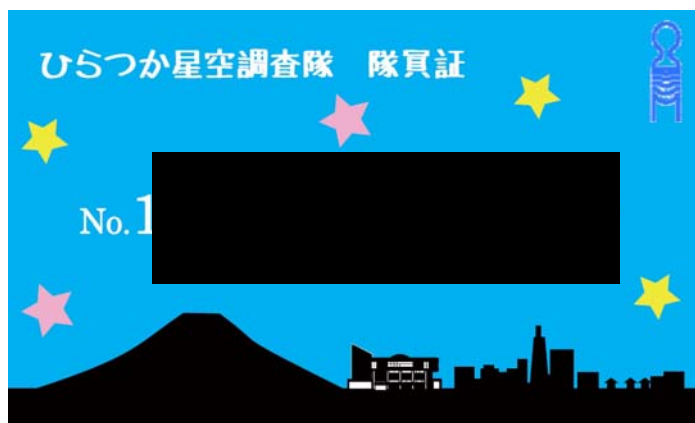


図3. 「ひらつか星空調査隊」隊員証(左)と押印スタンプ印影(右)

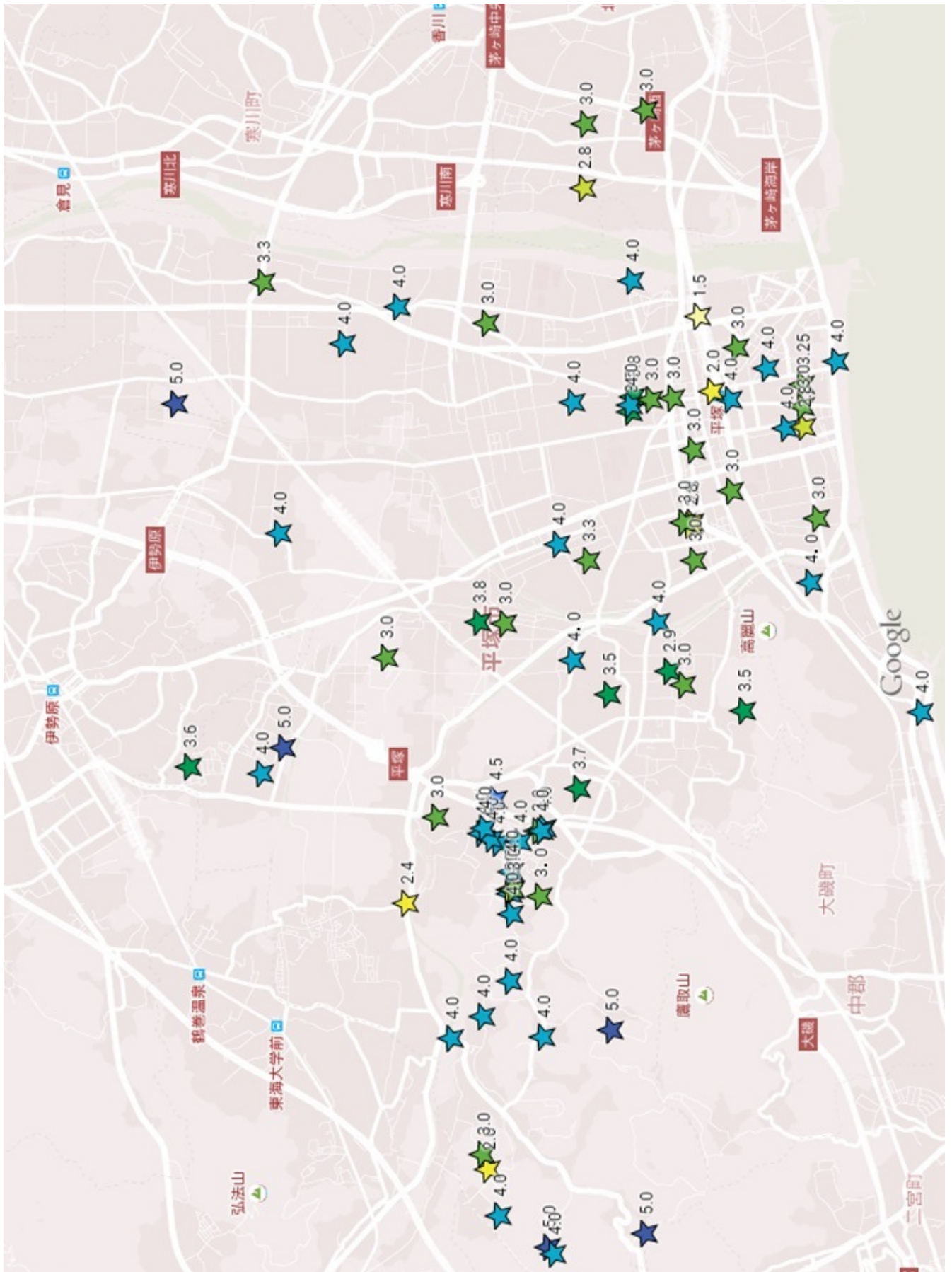


図 4. 「ひらつか星空調査隊」調査結果（観察結果を Google Map 上にプロットしたもの）

4. 「ひらつか星空調査隊」平成 26 年度の観察成果

平成 26 年度の「ひらつか星空調査隊」には、平塚市民を中心に周辺市町から合わせて計 133 人が登録し、うち 91 名から 105 地点のべ 284 報告があげられた。その結果を地図上にプロットしたのが図 4 である。期間中の晴天率は 67 %であった。調査の結果、冬は空の透明度が高く、市内でも 4 等台前半を見ることはそれほど困難ではないことがわかった。しかし、市の中心部（平塚駅周辺）はやはり明るく、反面、市域の北側と西側ではかなり暗い場所があった。また周囲の照明環境が大きく影響してしまった観測地もあった。

最も観察結果が暗かった＝多くの星が見えたのは、平塚市岡崎（市立岡崎小学校周辺）と平塚市土屋（土屋霊園周辺）、足柄上郡中井町井ノ口（中井富士見霊園周辺）、平塚市上吉沢、伊勢原市小稲葉であった。観察結果の分布から、北と西の市境は人家も少なく夜空が暗い場所が多いが、東の市境は相模川があるものの街が連続しているため明るい領域が続いていることもわかった。

5. 課題と今後の展望

平成 26 年度の観察結果からある程度の「夜空の明るさマップ」を作成することができたが、まだまだ観察地点は少なく等光度曲線を描けるまでにはなっていない。また調査の空白域も少なからず存在する（豊田周辺、大神周辺）。方法の簡便さを優先するため個人の眼視観察による調査であるため、視力や天候、判断基準などによる誤差も大きいと思われる。それらを低減させるためには同じ場所で複数の人間が複数回（日）観察することが有効で、そのためには隊員の数を増やすことが有効である。さらに、博物館学芸員による眼視観察やデジタルカメラによる星空の撮影も複数個所で行うことで、データの質を高める必要があると考えられる。隊員数を増やすために次年度以降、公民館や学校などにも呼びかけを行い、公民館での講座開催や学級単位での参加打診を検討していきたい。本稿執筆時点では平成 27 年度の調査が始まっているが、複数個所の公民館で講座を実施することができた。また、博物館における 2 回の講座受講も負担になっていた可能性が高く、平成 27 年度から講座受講を 1 回で済むようにした。今後も広報及び開催方法の拡充を図りたい。

また、光害の調査は継続することが重要である。近年、平塚市域も再開発が進んでいる地区があり、例えば天沼地区では工場が取り壊され新たに大規模商業施設が開業する予定である。大神地区では東海道新幹線新駅設置に関わるツインシティ構想がある。これらの再開発が環境にどのような影響を及ぼすか知るためにも継続した調査が必要であり、平成 27 年度以降も毎年度、継続していきたいと考えている。

また、冬期だけでなく下記の開催も検討したい。夏期は、晴天率がやや低い、天文薄明終了時刻が遅いため児童生徒による観察が難しくなる、などのデメリットがある反面、冬に比べて気候的には観察しやすく、平塚市は七夕まじりの街であるため訴求力もあると考えられる。

最後に、ひらつか星空調査隊 2014 に入隊し、調査・報告を行っていただいた隊員各位に厚く感謝したい。

<ひらつか星空調査隊 2014 隊員氏名（順不同）>

下田雅子・溪一郎・香音、芝田晃、長谷川千絵・由佳、城口実、後藤真理子、今井三千代、飯箸素孝・そよ子、水嶋千里・祥貴・陽向・奏向・帆向、相原忠雄、四宮琴音・音絵・紀子、佐藤良一、中山郁子・昭信・弥咲、上野夏枝、小林雅子、関喜久夫・理恵、吉原直里・美佳、佐々木文子・拓未・歩未、今井貴瑠子、田中千晶、阿部祐子・萌乃凜、峯良、土谷純一、秋山純代・重徳、新井志生実、岡澤智、川合慶一、須藤博、高橋光江、戸村比呂子、永井和男、中尾靖子、根岸一成、横関秀美、柳川三郎・美津江、露木正巳、堀田佳之介、佐々木和善、大村満裕、井上守、道村康博、富樫正一、宮田幹久、伊藤尚美、野口シズ子、橋本進、小林直幸、青戸孝夫、小野寺圭祐、篠田玲奈、大貫祐子、中村俊也、平川貞夫、市川泰二郎・多恵子、柳澤碧、中村美子、田中匠・由紀子、三田浩史・和宏、井澤映子、篠崎光徳、高橋英五、鈴木秀夫、相原一哉、黒木光鶴、秋山晶子・光希・紗希・拓生、杉崎誠、西盛国・浩子、村田真一、伊熊昭等、浜野彩乃・紗綾花、関谷瑠美

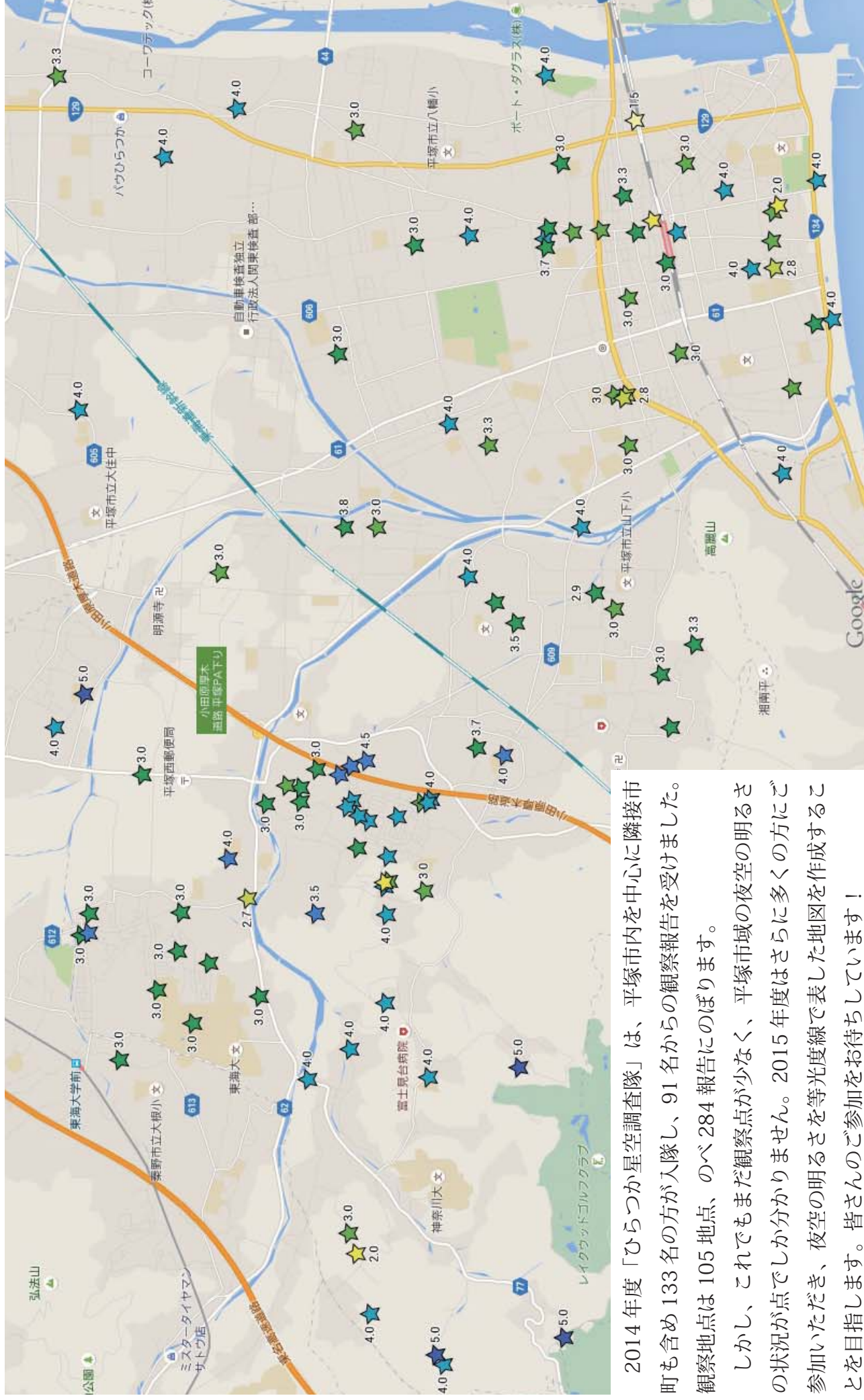
文 献

塚田 健・天体観察会会員有志（2015）市域における簡易的な光害調査方法の構築．平塚市博物館研究報告 自然と文化, (38), 21-22.

環境省 環境管理局 大気生活環境室（2007）良好な照明環境を目指して！光害って何？．環境省

ひらつか星空調査隊 2014 の成果

GoogleMap を利用して作成



2014 年度「ひらつか星空調査隊」は、平塚市内を中心に隣接市町も含め 133 名の方が入隊し、91 名からの観察報告を受けました。観察地点は 105 地点、のべ 284 報告にのびります。

しかし、これでもまだ観察点が少なく、平塚市域の夜空の明るさの状況が点でしか分かりません。2015 年度はさらに多くの方にご参加いただき、夜空の明るさを等光度線で表した地図を作成することを目指します。皆さんのご参加をお待ちしています！

☆マークの横についている数字がその場所での暗さの星まで見えるか、という等級を現しています。地図のカラー版や詳しい報告書などは博物館ウェブページの「ひらつか星空調査隊」のページで見ることができます（カラー版では星の色でも等級を現しています）。 http://www.hirahaku.jp/kyoushitsu_circle/hoshitsu_circle/hoshizora/